

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成26年6月11日現在

機関番号：14301
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2011～2013
 課題番号：23520533
 研究課題名（和文）ウイグル漢字音成立プロセスの解明

研究課題名（英文）On the formation of the phonological system IUPC (Inherited Uighur Pronunciation of Chinese)

研究代表者

庄垣内 正弘 (SHOGAITO, Masahiro)

京都大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：60025088

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000 円、（間接経費）1,140,000 円

研究成果の概要（和文）：ウイグル漢字音成立過程の解明について、ベルリン所蔵ウイグル文字表記漢文本U5335を中心に扱い、加えていくつかのウイグル文字表記の漢文断片を同定し、資料とした。いずれもこれまでほとんど研究されたことのない文献であった。ウイグル漢字音が10世紀代の「プロト体系」から徐々にウイグル語音化し、やがてU5335に見られるような元朝時代の簡素化した体系に発展してゆく過程を記述し、庄垣内がかつて体系として再構、提出したウイグル漢字音を検証し、その成立、発展を包括的に記述することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we studied on the U5335 text from the Berlin Turfan Collection and also on several other texts in Chinese written by Uighur script. Most of the texts including U5335 had not been studied before. We analyzed the texts written by the IUPC (Inherited Uighur Pronunciation of Chinese) and made clear the process of the formation of the phonological system of IUPC, where the “proto-system” of inherited Uighur pronunciation of Chinese in the 10th century had developed gradually to the simplified and refined one in the Yuan Dynasty. This study contributes to comprehensive description of the formation and the development of the inherited pronunciation of Chinese by verifying the IUPC system proposed in Shōgaito 1994.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：歴史言語学 ウイグル漢字音 漢文訓読 漢語音借用 ベルリントルファンコレクション ロシア所蔵

1. 研究開始当初の背景

1985年に高田時雄氏は漢文仏典である『法華経』と『慈悲道場懺法』の難字音注を表す小さな2断片を扱い、その体裁と音注の内容からこれをウイグル人の手によるものとし、ウイグルに漢字音の存在したことを推定した（「ウイグル字音考」『東洋学報』No.70）。1990年に入ってロシア科学アカデミー東洋文献研究所（旧東方学研究所サクトペテルブルグ支所）が外国人にも開放され、研究代表者はウイグル語文献の調査に従事した。その

過程においてウイグル文字で表記された漢文断片13葉を発見した。解読の結果、それらの内容が『聖妙吉祥真実名経』、『四分律比丘尼戒本』、『礼懺文』であることが判明した。『聖妙吉祥真実名経』が元朝時代に漢語訳されていることからウイグル文字表記漢文も元朝時代に書かれたと判断できるが、ウイグル文字表記から構築した漢語音体系は唐末・五代の西北漢語音と基本的に一致した。元朝時代には西域においても中原音韻の体系が漢語音として一般であったことはウイ

グル俗文書中に見られる漢語音写形式からも明確である。ウイグル文字音写漢文は300年以上も昔の漢語音を使用していたことになる。これら断片がすべて仏典であることから、ウイグル僧は中国から漢文仏典を導入した早い時代の漢語音を仏教聖語音として元朝にまで継承したものと推定し、この漢語音を「ウイグル漢字音」と呼んだ(庄垣内:『ウイグル文字音写された漢語仏典断片について』『言語学研究』京都大学 No.14,1995、続編『西南アジア研究』No.46, 1997、『ロシア所蔵ウイグル語文献の研究—ウイグル文字表記漢文とウイグル語仏典テキスト』京都大学 2003)。

その後、ベルリン・トルファン・コレクションにも U5335 の番号で登録されたおよそ30頁からなるウイグル文字表記漢文テキストの存在を知り、その解読に従事してきた。内容は複数の漢文仏典から抜粋されており、難解であるが70%の解読が終了している。またベルリンから別途ウイグル文字音写の漢文断片が10点あまり見つかり、研究代表者の庄垣内が扱うことになった。そのうち、解読した2点は公表した。また、サンクトペテルブルクの東洋文献研究所所蔵品にもなお10点程度のウイグル文字表記漢文のあることを代表者はこの研究を開始する少し前に知るに及んだ。これらの新発見のウイグル文字表記漢文にはウイグル語音化の進んでいない時期のテキストや逆に中原音韻の体系の一部を反映するテキスト、その他にも、特定の漢字に特殊な音形を与えるテキストなどもあり、これら変種が意味することを解明しつつ、代表者が1995年に体系として提出したウイグル漢字音体系の再構築の必要性が生じていた。

2. 研究の目的

かつて研究代表者は、ウイグル文字表記漢文の断片類を解読することによって、ウイグル漢字音の存在を明確化し、その音韻体系の構築を試みた。しかしその後出現した同種の断片類には音韻レベル、語彙レベルでのかなりの変種がみられることが解った。この研究では1)新しい断片類を解読音韻体系の再構築を試みる。2)次にウイグル語文献中の漢語音写語彙を分類整理し、ウイグル漢字音との関係を考えることで、ウイグル漢字音の発生の条件と成立過程とを解明する。3)さらにウイグル文中の漢字あるいは漢字列のウイグル語訓読例から、年来の懸案であるウイグル語による漢文訓読の性格を明確にする。異状のことを目的とした。

3. 研究の方法

ベルリン・トルファン・コレクションに収められている U5335 を中心に扱ったが、近

年あらたに発見されたウイグル漢字音による文献の解読、解明を含め、1995年に研究代表者が提出したウイグル漢字音のシステム IUPC により書かれた文献について精査をすすめる。特に、あらたに発見された文献に見られる IUPC の変種の意味するものを解明するために、まずこれら諸文献の解読からはじめた。なお、ロシア所蔵の IUPC による文献には、ウイグル文字表記漢文以外に、敦煌出土漢字漢文仏典に傍注として記されている難字音注がかなりの分量で見られ、これらの難字音注もウイグル漢字音の体系に従っているため、合わせて検討した。

さらに研究代表者の庄垣内は、かつてウイグル語文中の漢語音写語彙について記述している(「ウイグル文献に導入された漢語に関する研究」『内陸アジア言語の研究』No.2, pp.17-156, 1987年)が、この記述以後に提出された大量のウイグル語テキストから、漢語音写語彙を収集し、議論を進展させ、漢語音写語彙とウイグル漢字音との関係を考慮して、ウイグル漢字音の発生条件と成立過程を解明した。

また、ウイグル語文中にある漢字あるいは漢字列の訓読について研究代表者は、ウイグル語擬漢文構文や抜粋ウイグル語訳仏典と関連させ、漢文訓読の存在を主張してきたが、この点についてもウイグル漢字音を絡ませて考察をさらに重ねた。

最終的に IUPC の成立過程及びその変種にも考慮した包括的な記述のために当初の予定どおり、ベルリン所蔵の U5335 を中心にその他にロシア、中国所蔵の断片も含む12点の IUPC による文献を解読、ウイグル漢字音表記のあり方を検討した。既に庄垣内が2003年にまとめた形で提出している IUPC を精査し、その検証を行い、IUPC を再構築し、包括的記述を出版した。なお、研究代表者の庄垣内が本研究課題を遂行中の1年目の年度末に健康状態に異状(疾病)をきたしたため、研究計画については見直しをせざるを得なかった。研究方法はほぼ踏襲したまま、当初、連携研究者であった藤代が研究分担者になり、また、当初より研究協力者として常時参加する予定であった3名についても、代表者主導の下、包括的既述の成果として上記研究を取りまとめるにあたり、それぞれに役割を分担し積極的に研究に参加した。

4. 研究成果

IUPC ウイグル漢字音成立過程の解明について、ベルリン所蔵ウイグル文字表記漢文本 U5335 の研究を終えた。この IUPC により表記された文献を元の漢文と同定し漢字音資料とすることができた。同定できた漢文を上げれば『大方廣佛華嚴經(大正新脩大藏經 10, p. 444c 11. 26~27)』、『無相禮(Pelliot 2690V

“敦煌寶藏” vol.123)』、『讚(“淨土五會念佛略法事儀讚(大正新脩大藏經 47, p. 477a 11. 13~16)』、『念佛之時得見佛讚 (“淨土五會念佛誦經觀行儀 (大正新脩大藏經 85, p. 1259a 1. 26~c 1. 7)、『毘達磨論(大正新脩大藏經 28, p. 980b 1. 22~c 1. 2)、『云何梵淨土五會念佛略法事儀讚 (大正新脩大藏經 47, p. 475b 1. 27~c 1. 2)、『五臺山讚文 (S4039, S4429, S5573)』、『六根讚 淨土五會念佛誦經觀行儀卷中 (大正新脩大藏經 85, p. 1248b 11. 2~15)、『太子五更轉往生極樂讚 (Pelliot 2483)』、『和菩薩戒文 (大正新脩大藏經 85, p. 1300c 11. 10~15)となる(詳細はShōgaito et al (2014[Forthcoming])を参照)。これらを元にIUPCシステムの精査を行った。特定の漢字に特殊な音形を与えるとして特殊音としては、「宝」「願」「王」「仏子」などを確定できた。

この研究は、当初の予定通り、研究代表者の庄垣内が中心になり、分担者の藤代、国内研究協力者の菅原睦、大崎紀子、さらに国外研究協力者のAbdurishid Yakupの5名の共著で、英文にてドイツ国から出版することができた (*Chinese Text Written in Uighur Script U5335: A Reconstruction of the Inherited Uighur Pronunciation of Chinese.*)。昨年度までに同定した資料に加えて、同じくU5335とは別のいくつかのテキスト、即ち、「菩薩禮讚文」(Mainz806)、「十方佛」(U5781)、「阿含經」(Ch/U7114)などのウイグル文字表記の漢文断片を同定し、これまで未発表であったものも含め、上記の書籍において、30頁に及ぶ文献U5335のウイグル漢字音研究とともに出版することができた。それら断片は、梵網經(Brahmajāla-sūtra) (Ch/U 7729ベルリン所蔵)(cf. Shōgaito 2009)、増一阿含經(Ekottarāgama) (MIK III 7256 Museum für Asiatische Kunst) (cf. Shōgaito 2010)、聖妙吉祥眞實名經(Mañjuśrīnāmasaṃgīti) (Dx-12082 and Dx-12114ロシア所蔵)(cf. Shōgaito 2012b)、千字文(Thousand Characters Essay) (SI Kr. IV260ロシア所蔵)(cf. Shōgaito 2004)、寅朝禮懺文'(Yakup 2014), plate 92 verso in Tū-lū-fān kāo-gū-jī 吐魯番考古記(Huáng Wén-bi 黃文弼1954)、金剛般若波羅蜜經(Vajracchedikā-prajñāpāramitā-sūtra) (U8004ベルリン所蔵)、梵網經(Brahmajāla-sūtra) (Ch/U 6355ベルリン所蔵)、菩薩禮讚文 'The worship and praise of Bodhisattvas' (Mainz 806)、十方佛 (Buddha in ten quarters) (U5781ベルリン所蔵)、別訳雜阿含經(Another translation of the Saṃyukta-āgama) (U613ベルリン所蔵)

、聖者文殊利發菩提心願文 (Kr. IV 716 Recto ロシア所蔵)、阿含經 (Āgama-sūtra) (Ch/U 7114 ベルリン所蔵)である。

ウイグル漢字音が10世紀代の「プロト体系」から徐々にウイグル語音化し、やがてU5335に見られるような元朝時代の簡素化した体系に発展してゆく過程を記述し、庄垣内がかつて体系として再構、提出したウイグル漢字音を検証し、その成立、発展を包括的に記述した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

SHŌGAITO, Masahiro (2011) “Interlinear characters based on the phonological system of IUPC,” *Dynamics in Eurasian languages II —Studies on Languages in Multi-lingual Areas—* (CSEL 17), Kobe City College of Nursing, pp. 1-17.

SHŌGAITO, Masahiro (2012) “How deeply Inherited Uighur pronunciation of Chinese (IUPC) rooted in Uighur? —Two forms of the Chinese phonological system in Old Uighur,” *Proceedings of the 1st International Colloquium on Ancient Manuscripts and Literatures of the Minorities in China* (edited by J. Huang, H. Nie & L. Ma), Minzu Publishing House (民族出版社), Beijing, pp. 344-355.

SHŌGAITO, Masahiro (2012) “Two fragments of Chinese Mañjuśrīnāmasaṃgīti transcribed into Uighur script —Дх-12114 and Дх-12082 preserved in St. Petersburg—,” *Тангуты в Центральной Азии: Сборник статей в честь 80-летия профессора Е.И.Кычанова* (edited by I. F. Popova), *Восточная литература*, Moscow, pp. 375-382.

SHŌGAITO, Masahiro (2013) “An Uighur fragment of the ‘Commentaries on *Abhidharmakośa-kārikā* 俱舍論頌疏),” *Yarmakan, Semih Tezcan’a Armağan: Abant İzzet Baysal Üniversitesi Sosyal Bilimler Enstitüsü Dergisi* 13, Bolu, pp. 341-352.

庄垣内正弘(2014)「ウイグル漢字音と漢文訓読」『日韓漢文訓読論集』, 勉誠出版。[近刊]

[学会発表] (計 4 件)
庄垣内正弘 (招待講演) 「ウイグル漢字音と漢文訓読」『日・韓訓読シンポジウム』(2011年 10 月 29 日 麗澤大学)

SHŌGAITO, Masahiro (招待講演) “Curious loan words from Old Uighur in a Mongolian Buddhist text”, Seminar at the Department of Uighur language and literature, Minzu University of China (2013 年 10 月 28 日 中央民族大学、北京市)

SHŌGAITO, Masahiro (招待講演) 「与現代維語發展過程相關的 3 種文献」、Seminar at the Department of Uighur language and literature, Minzu University of China (2013 年 10 月 29 日 中央民族大学、北京市)

OHSAKI, Noriko (招待講演) An introduction to our study on the Chinese text written in Uighur script U5335: A reconstruction of the inherited Uighur pronunciation of Chinese (2013 年 10 月 28 日 中央民族大学、北京市)

[図書] (計 2 件)
SHŌGAITO, Masahiro, FUJISHIRO Setsu, OHSAKI Noriko, SUGAHARA Mutsumi & YAKUP Abdurishid [Forthcoming] *Chinese Text Written in Uighur Script U5335: A Reconstruction of the Inherited Uighur Pronunciation of Chinese*. Berliner Turfantexte XXXVI, Turnhout, Berlin.

SHŌGAITO, Masahiro [Forthcoming] *The Uighur Abhidharmakośabhāṣya preserved at the Museum of Ethnography in Stockholm* (Turcologica Band 99), Harrassowitz, Wiesbaden

6. 研究組織

(1) 研究代表者

庄垣内 正弘 (SHŌGAITO, Masahiro)
研究者番号 : 60025088
京都大学・名誉教授

(2) 研究分担者

藤代 節 (FUJISHIRO, Setsu)
神戸市看護大学・看護学部・准教授
研究者番号 : 30249940

(3) 研究協力者

大崎 紀子 (OHSAKI, Noriko)
京都大学・文学研究科附属ユーラシア文化
研究センター・教務補佐員
研究者番号 : 90419458

菅原 睦 (SUGAHARA, Mutsumi)
東京外国語大学・外国語学研究科・准教授
研究者番号 : 50272612

ヤクプ アブドゥリシッド (YAKUP, Abdurishid)

ベルリン科学アカデミー(ドイツ国)・常任
研究員/中央民族大学(中国)・教授